

守山市立北部図書館(本の湖)^{うみ}
開館記念特集



『いつもよりも具体的な本づくりの話を。』北尾 修一／著

イースト・プレス 022キ

本書は、2020年に9名の編集者と著者が対話した書店でのイベントの内容に加え、自身も編集者で出版社の代表でもある著者の経験を余すところなく詰め込んだ一冊。例えば、企画書の書き方、初めての打ち合わせて何を話せばいいかなど、本づくりのノウハウが各編集者のエピソードもまじえて紹介されています。編集の仕事のリアルな裏側を知ることができ、いつか本を作りたいなどと思っている人に役立つ内容になっていますが、どの方も楽しめます。



『図書館にまいこんだこどもの大質問』こどもの大質問編集部／編 青春出版社 015.2キ



図書館には日々様々な質問が寄せられます。この本は、そんな質問の中でも子どもからの質問を集めたものです。内容は「魔法がつかえるようになりたい」「サンタクロースはいないって、本当?」「神さまってなに?」「飼っているカマキリを戦いに強くしたい」など、無邪気な要望から難しい問いまで多岐にわたります。こどもの質問と侮るなかれ。中には図書館全館総出で一週間調査して回答したのもあり、読みごたえ抜群です。

『図書館ウォーカー 旅のついでに図書館へ』オラシオ／著 日外アソシエーツ 016.2キ



本書は、66の図書館をめぐる旅のエッセイです。著者は、旅のついでに図書館を訪ねます。図書館には郷土コーナーの蔵書があり、観光パンフレットやご当地系イベントのチラシも置いてあり、その土地の情報が満載されている「地域密着型施設」として、旅のこれからをより充実させてくれる場所だからです。

各館データ欄には、休館日・開館時間・交通情報・近隣おすすめスポット・グルメ・絶景写真などが掲載されています。さあ、あなたも旅のついでに図書館へ行ってみませんか。



『本売る日々』青山 文平／著 文藝春秋 913.6キ



江戸時代、主人公の「私」は松月堂という本屋を構え、月に一度は地方を回り行商を行っていました。そして、本を求める各地の名主らの家で見聞きした話の謎を、種々の本を交えながら解き明かしていくのでした。

客の好みを考えた丁寧な品揃えをする「私」と、本好きの客たち。彼らの会話の中から、本を大切に思う気持ちが伝わってきます。

『れんげ野原のまんなかで』森谷 明子／著 東京創元社 913.6キ



のどかな街にある「秋庭市立秋葉図書館」。館内にはのんびりとした空気が流れているにもかかわらず、様々なミステリアスな出来事が起きます。たわいない小学生のかくれんぼや、命が失われるシリアスなものなど、司書たちを悩ませる出来事ばかり。しかし、鋭い感性のベテラン司書や好奇心旺盛の新人司書たちが、本の知識と図書館機能を生かし、次々と真相を明らかにしていきます。続編も別タイトル『花野に眠る』『星合う夜の失せもの探し』として出版されています。

